

序

本特集号は、2008年度をもって本学経済学部を定年により退任され、かつ2009年7月31日に7年の任期を終えられて本学学長を退任された小田章先生に、深い感謝と惜別の情を込めて編まれたものである。

小田先生は、1971年に本学経済学部助手として赴任、その後1985年に教授に昇任された。この間38年の長きにわたり本学一筋に活躍された。特にその深い学識と類まれなるリーダーシップの発揮により、本学の内外において多大な貢献をなされてきた。

教育面においては、学部の講義として経営学総論等を、大学院の講義として経営組織論特殊問題等を担当されてきた。多くの学生・院生を育成され、その中には実社会において活躍し、また研究者として注目される俊英も多い。

研究面においては、西ドイツ（当時）の経営組織学の研究を基礎として、日本の経営とドイツ的経営の比較研究に体系的に取り組まれた。ドイツにおける労使の共同決定に伴う企業の労務管理への影響や経営参加による企業体制への影響等について、多くの成果を挙げられた。

学内行政面においては、代表的な功績として、学部において学部長等、全学において学長、副学長、附属図書館長、評議員等を歴任され、学部内にとどまらず大学全体の運営に長きにわたって中心的・指導的役割を果たされた。なかでも国立大学の法人化に伴う激動の時代かつ観光学部創設に当たった指導力・行動力に関しては特筆する必要がある。

地域貢献面においては、和歌山県・和歌山市を中心として各種審議会・委員会等で指導的役割を果たされ、地域社会において諸般のご貢献をなされた。また、学内行政面とも関係するが、いわば「和歌山大学の広告塔」として、法人化された国立大学の今後のあり方について、広く情報発信されてきたことも特筆される功績としてあげられよう。

小田先生の本学並びに経済学部に対するこれまでの比類なきご貢献に対し心から敬意と感謝の意を表するとともに、今後のさらなるご活躍とご健勝をお祈り申し上げる。

2009年8月

和歌山大学経済学会長

森 口 佳 樹